

経済情勢

(9月の経済指標を中心に)

全国、中国ともに、景気は、一部に足踏みが残るものの、緩やかに持ち直している。先行きについては、中国、米国経済の減速などを背景とした海外経済の下振れや、金融市場の変動、物価上昇などによる経済活動への影響が懸念される。

(全国)

個人消費	一部に足踏みが残るものの、持ち直しの動きがみられる
住宅投資	新設住宅着工戸数（9月）は前年を下回った
設備投資	機械受注（9月）は前年を下回った
公共投資	公共工事請負額（9月）は前年を下回った
輸出	輸出金額（9月）は前年を下回った
生産動向	一進一退で推移している
雇用情勢	改善の動きが弱まっている

(中国)

個人消費	一部に足踏みが残るものの、持ち直しの動きがみられる
住宅投資	新設住宅着工戸数（9月）は前年を下回った
公共投資	公共工事請負額（9月）は前年を下回った
輸出	輸出金額（9月）は前年を下回った
生産動向	一進一退で推移している
雇用情勢	改善の動きが弱まっている

1. 景気動向指数・景気ウォッチャー調査(9月)

景気動向指数(全国C I)の一致指数、先行指数は、2カ月ぶりに上昇した。

景気ウォッチャー調査(現状判断D I)は、全国、中国ともに4カ月ぶりに低下した。

● 景気動向指数(C I)

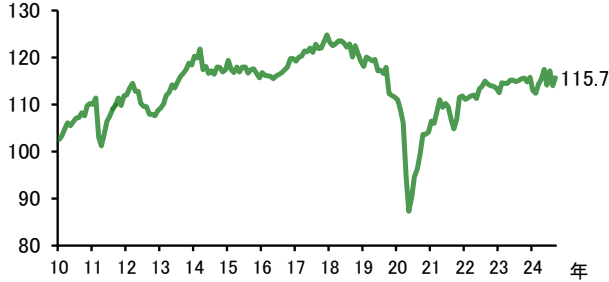
(一致指数)

・115.7(前月差+1.7ポイント)と2カ月ぶりに上昇。

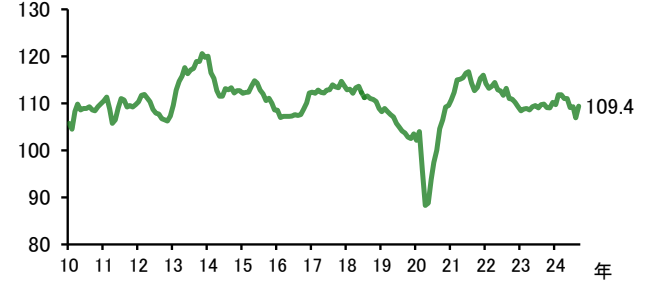
(先行指数)

・109.4(前月差+2.5ポイント)と2カ月ぶりに上昇。

(2020年=100)



(2020年=100)



C I 一致指数(前月差)	1.7
---------------	-----

C I 先行指数(前月差)	2.5
---------------	-----

指標名	寄与度
鉱工業用生産財出荷指数	0.70
輸出数量指数	0.64
耐久消費財出荷指数	0.37
鉱工業生産指数	0.25
有効求人倍率(除学卒)	0.23
営業利益(全産業)	0.07
労働投入量指数(調査産業計)	▲0.00
投資財出荷指数(除輸送機械)	▲0.06
商業販売額(卸売業)	▲0.14
商業販売額(小売業)	▲0.34

指標名	寄与度
鉱工業用生産財在庫率指数(逆)	0.90
最終需要財在庫率指数(逆)	0.73
中小企業売上げ見通しD I	0.49
新設住宅着工床面積	0.34
新規求人数(除学卒)	0.05
消費者態度指数	0.03
東証株価指数	0.03
マネーストック(M2)	0.03
日経商品指数(42種総合)	▲0.05
実質機械受注(製造業)	
投資環境指数(製造業)	

注:1. 景気動向指数(CI)は景気変動の大きさやテンポ(量感)を測定することを目的としている。資料は内閣府「景気動向指数(速報)」。

2. 景気動向指数とは、生産、雇用など重要な景気に敏感な指標の動きを統合することによって、景気の現状把握および将来予測に資するために作成されたもので、景気に対し先行して動く先行指数、ほぼ一致して動く一致指数、遅れて動く遅行指数の3本の指数がある。

● 景気ウォッチャー調査(D I)

(全国)

・現状判断D Iは、47.8(前月差▲1.2ポイント)と4カ月ぶりに低下。
 ・先行き判断D Iは、49.7(前月差▲0.6ポイント)と4カ月ぶりに低下。

(中国)

・現状判断D Iは、49.2(前月差▲2.6ポイント)と4カ月ぶりに低下。
 ・先行き判断D Iは、50.3(前月差▲1.1ポイント)と5カ月ぶりに低下。



注:1. 景気ウォッチャー調査は、地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域ごとの景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断の基礎資料とすることを目的としている。資料は内閣府「景気ウォッチャー調査」。

2. 季節調整値

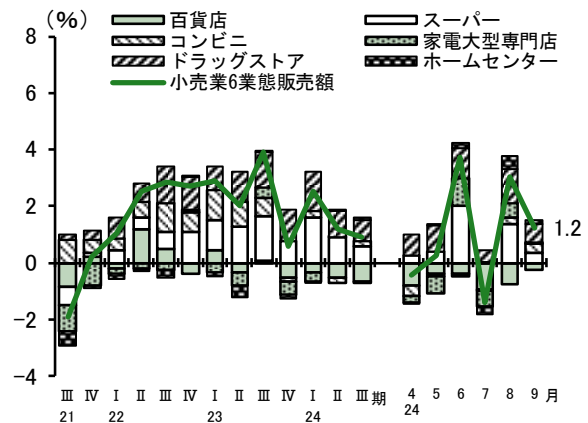
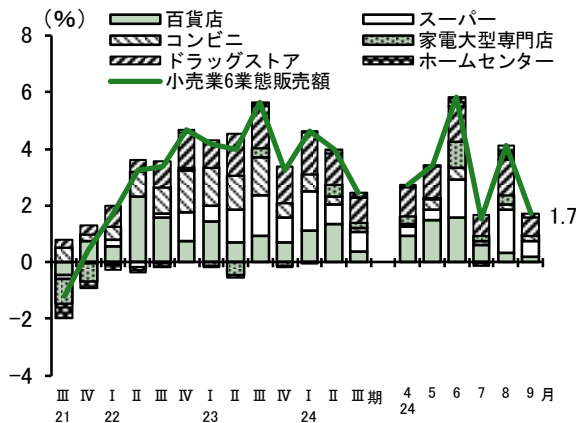
2. 個人消費 (9月)

全国、中国ともに、一部に足踏みが残るものの、持ち直しの動きがみられる。

● 小売業6業態販売額 [対前年伸び率]

(全国) ドラッグストア、スーパーなどを中心に増加し、34カ月連続で前年比プラス(前年同月比+1.7%)。店頭価格の上昇が全体の売上を押し上げているものの、買い上げ点数の減少など物価上昇による節約志向がみられる。今月は、前年同月に比べ休日が1日増だったことで売上が増えたほか、残暑の影響で夏物商材や飲料などが引き続き好調だった。

(中国) ドラッグストア、スーパーなどを中心に増加し、2カ月連続で前年比プラス(前年同月比+1.2%)。全国同様、買い上げ点数の減少など物価上昇による節約志向がみられる。今月は、前年同月に比べ休日が1日増だったことで売上が増えたほか、残暑の影響で夏物商材や飲料などが引き続き好調だった。



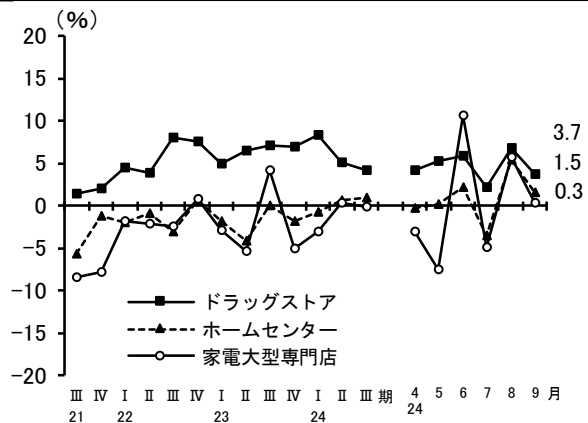
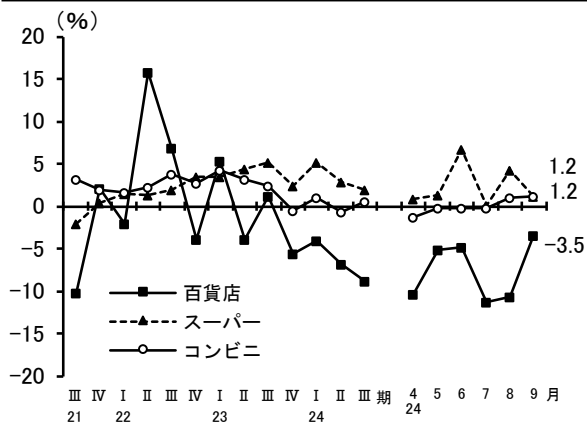
注：1. 全店舗ベース 2. 小売業6業態は、百貨店、スーパー、コンビニエンスストア、家電大型専門店、ドラッグストア、ホームセンター
資料：経済産業省「商業動態統計月報」

○ 百貨店・スーパー・コンビニエンスストア販売額 [対前年伸び率]

○ ドラッグストア・ホームセンター・家電大型専門店販売額 [対前年伸び率]

(中国)
 ・百貨店は、一部店舗の売場面積縮小によるマイナス効果がほぼ一巡したものの、気温高により秋物衣料が低調に推移し、13カ月連続で前年比マイナス(前年同月比▲3.5%)。
 ・スーパーは、価格上昇により米など食料品の販売額が増加したほか、気温高により飲料やアイスが良く売れたことで、27カ月連続で前年比プラス(同+1.2%)。
 ・コンビニは、気温高により飲料やアイスがよく売れたほか、レトルト食品やパックご飯なども売上を伸ばし、2カ月連続で前年比プラス(同+1.2%)。

(中国)
 ・ドラッグストアは、価格上昇と需要の高まりにより米の販売額が増加したことなどから、33カ月連続で前年比プラス(前年同月比+3.7%)。
 ・ホームセンターは、気温高により扇風機や冷感ウェア等が好調だったほか、防災用品として乾電池やDIY用品などがよく売れたことで、2カ月連続で前年比プラス(同+1.5%)。
 ・家電大型専門店は、テレビ、パソコンなどが低調だったものの、気温高によりエアコン等が引き続きよく売れたことなどから、2カ月連続で前年比プラス(同+0.3%)。

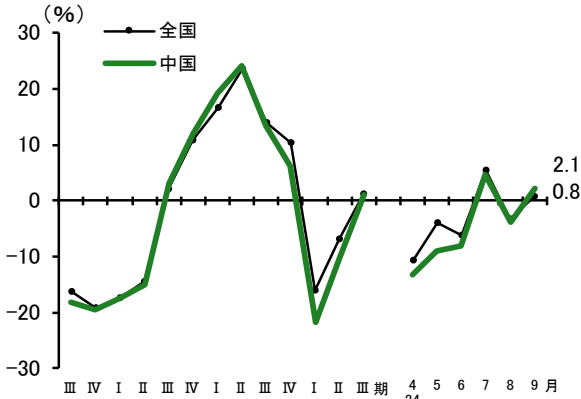


注：全店舗ベース
資料：経済産業省「商業動態統計月報」

● 新車登録・届出台数(乗用車) [対前年伸び率]

(全国) 普通、小型、軽乗用車がいずれも増加し、2カ月ぶりに前年比プラス(前年同月比+0.8%)。認証不正問題による影響が薄れたことにより回復傾向で推移する中、前月末の台風による落ち込みも徐々に緩和されたことで再びプラスとなった。

(中国) 軽乗用車が若干減少したものの、普通、小型乗用車が増加し、2カ月ぶりに前年比プラス(同+2.1%)。全国同様、回復傾向で推移する中、前月末の台風による落ち込みも徐々に緩和されたことで再びプラスとなった。

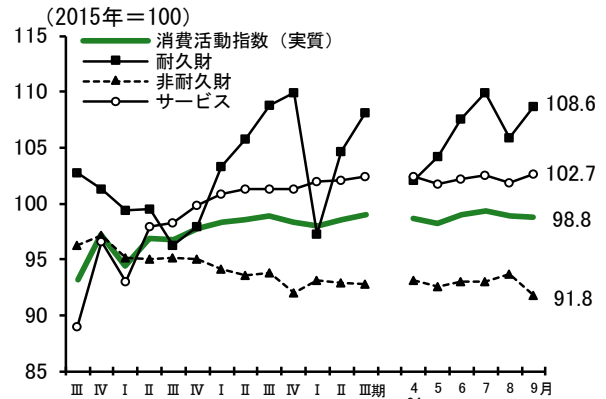


資料：中国運輸局「新車登録・届出状況」、
(一社)全国軽自動車協会連合会「軽自動車新車販売統計」

● 消費活動指数(実質)

(全国) 消費活動指数(季節調整済)は98.8(前月比▲0.1%)と、2カ月連続で前月を下回った。

- ・耐久財は、前月、台風によるマイナス影響がみられた自動車を中心に上昇した。
- ・非耐久財は、残暑が続いたことで秋物衣料の動きが鈍かったほか、物価上昇の影響により飲食料品が伸び悩み、前月を下回った。
- ・サービスは、好天が多かったことなどから遊園地やスポーツ観戦などが好調に推移し、前月を上回った。



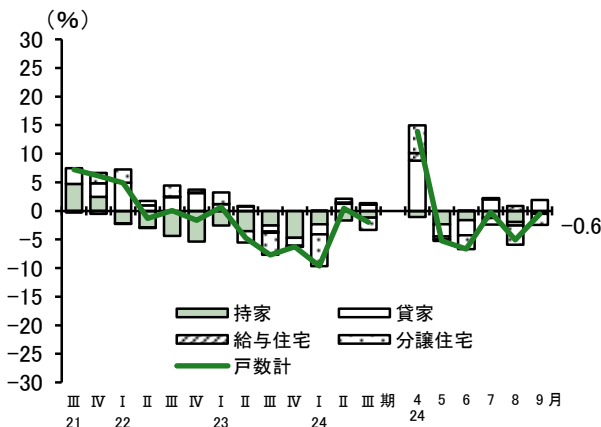
注：1. 季節調整済指数
2. 消費活動指数の形態別ウエイトは、耐久財8.9、非耐久財40.5、サービス50.7
資料：日本銀行「消費活動指数」

3. 住宅投資(9月)

新設住宅着工戸数は、全国、中国ともに前年を下回った。

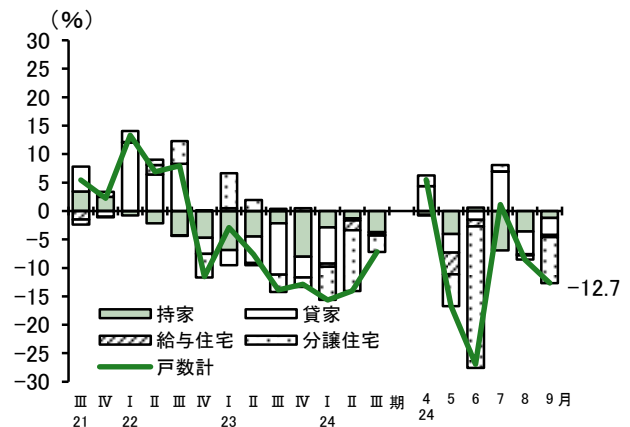
● 新設住宅着工戸数 [対前年伸び率]

(全国) 貸家が増加したものの、分譲住宅、持家、給与住宅が減少し、5カ月連続で前年比マイナス(前年同月比▲0.6%)。



注：持家、貸家、給与住宅、分譲住宅は、新設住宅着工戸数の対前年伸び率に対する利用関係別寄与度
資料：国土交通省「建築着工統計調査報告」

(中国) 分譲住宅、貸家、持家、給与住宅がいずれも減少し、2カ月連続で前年比マイナス(前年同月▲12.7%)。



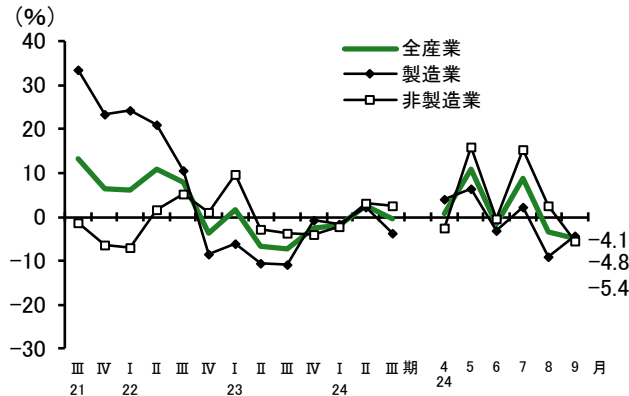
4. 設備投資・公共投資（9月）

機械受注（全国）は、製造業、非製造業ともに前年を下回った。
公共工事請負額は、全国、中国ともに前年を下回った。

● 機械受注額 [対前年伸び率]

(全国)

- ・ 2 カ月連続で前年比マイナス（前年同月比▲4.8%）。
- ・ 製造業（同▲4.1%）は、窯業・土石製品、石油・石炭製品などが増加したものの、電気機械、非鉄金属などが減少し、2 カ月連続で前年比マイナス。
- ・ 非製造業（同▲5.4%）は、不動産業、通信業などが増加したものの、金融業・保険業、情報サービス業などが減少し、3 カ月ぶりに前年比マイナス。



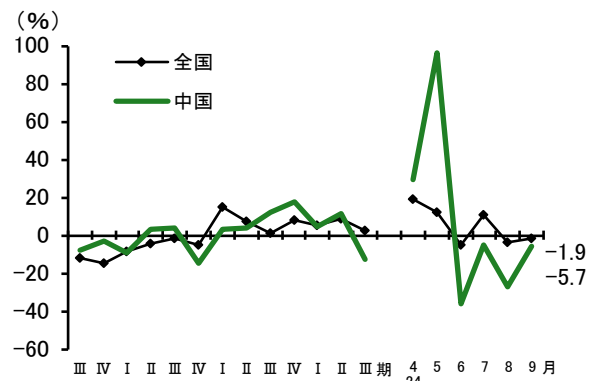
注：機械受注額は民需の合計であり、全産業、非製造業とも船舶・電力を除く数値

資料：内閣府「機械受注統計調査報告」、北海道建設業信用保証㈱、東日本建設業保証㈱、西日本建設業保証㈱「公共工事動向」

● 公共工事請負額 [対前年伸び率]

(全国) その他公共団体、市区町村からの発注が増加したものの、独立行政法人等、都道府県、国からの発注が減少し、2 カ月連続で前年比マイナス（前年同月比▲1.9%）。

(中国) 国、県からの発注が増加したものの、独立行政法人等、市町村、その他公共団体からの発注が減少し、4 カ月連続で前年比マイナス（同▲5.7%）。

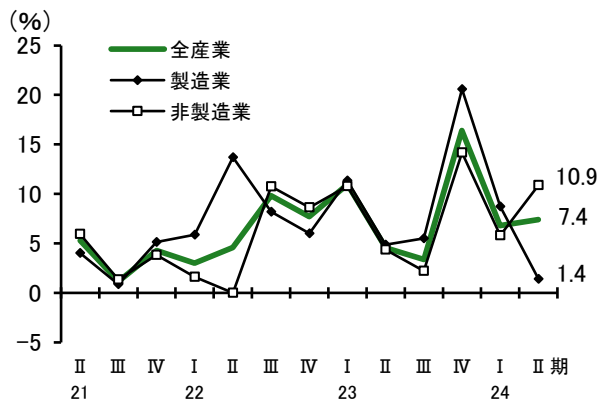


● 法人企業統計（2024年4-6月期）

設備投資額 [対前年伸び率]

(全国)

- ・ 4-6 月期の設備投資額は、13 四半期連続の前年比プラス（前年同期比+7.4%）。
- ・ 製造業は13 四半期連続のプラス（同+1.4%）。
- ・ 非製造業は8 四半期連続のプラス（同+10.9%）。



1. 金融業・保険業を除くベース
2. ソフトウェア投資額を含む

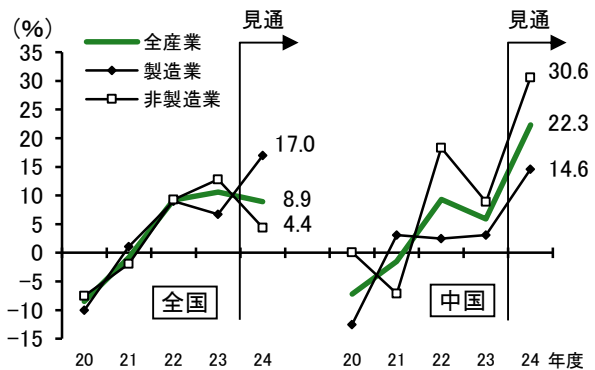
資料：財務省「法人企業統計」

● 企業短期経済観測調査（日銀短観2024年9月調査）

設備投資額 [対前年伸び率]

(全国) 2024 年度の設備投資は、3 年連続で前年を上回る見通し（前年度比+8.9%）。製造業、非製造業ともにプラス。

(中国) 2024 年度の設備投資は、3 年連続で前年を上回る見通し（同+22.3%）。製造業、非製造業ともにプラス。



1. 企業短期経済観測調査（短観）は四半期ごとに公表されている
 2. 土地投資額を含む、ソフトウェア投資額と研究開発投資額は含まない
- 資料：日本銀行「短観（全国企業短期経済観測調査）」、
日本銀行広島支店「企業短期経済観測調査結果の概要」

5. 輸出・輸入(9月)

輸出金額は、全国、中国ともに前年を下回った。

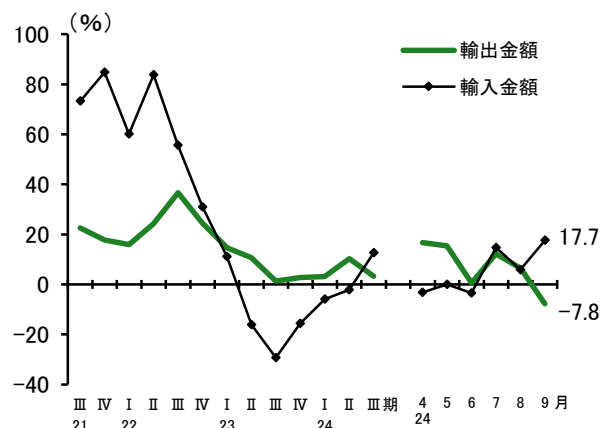
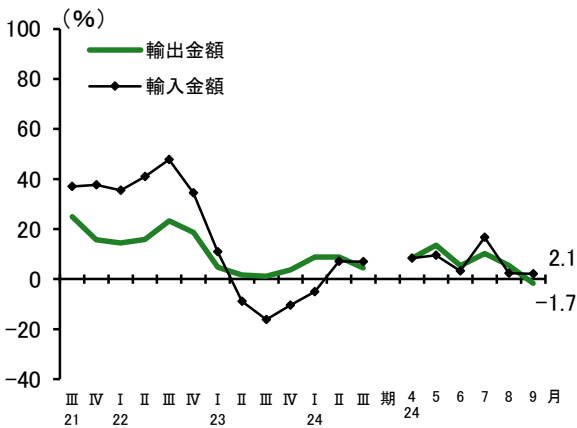
● 輸出・輸入金額 [対前年伸び率]

(全国)

- 輸出金額は10カ月ぶりに前年比マイナス(前年同月比▲1.7%)。アジア向けを中心に需要の回復がみられることから、半導体等製造装置や半導体等電子部品などが増加したものの、このところ欧米向け需要が停滞している自動車などが減少した。
- 輸入金額は6カ月連続で前年比プラス(同+2.1%)。原油などが減少したものの、電算機類(含周辺機器)や半導体等電子部品などが増加した。

(中国)

- 輸出金額は8カ月ぶりに前年比マイナス(前年同月比▲7.8%)。船舶(貨物船)、石油製品(軽油)などが増加したものの、欧州向けを中心に自動車が増減したほか、鉄鋼なども減少した。
- 輸入金額は3カ月連続で前年比プラス(同+17.7%)。石油製品(揮発油等)などが減少したものの、非鉄金属、鉄鉱石、石炭などの鉱物資源が増加した。



注: 1. 輸出金額、輸入金額は円ベース 2. 輸出確報; 輸入速報(9桁)
資料: 財務省「貿易統計」、神戸税関「中国圏・各県貿易統計」

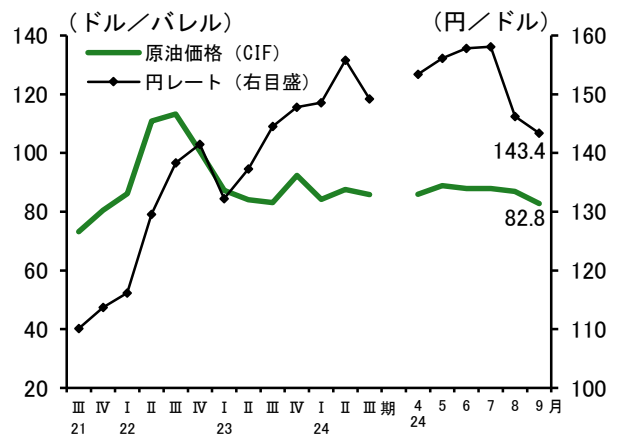
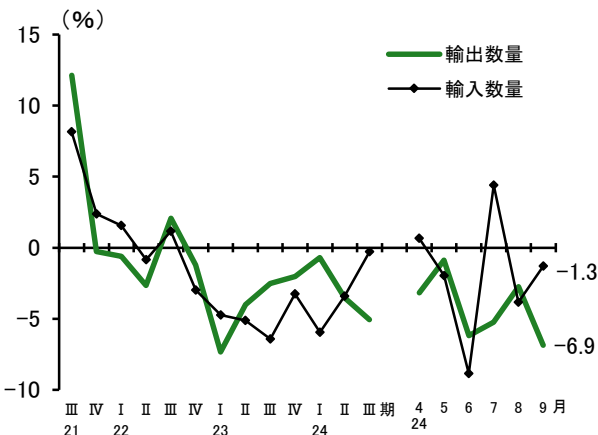
● 輸出・輸入数量 [対前年伸び率]

(全国)

- 輸出数量は8カ月連続で前年比マイナス(前年同月比▲6.9%)。
- 輸入数量は2カ月連続で前年比マイナス(同▲1.3%)。

● 原油価格・円レート

- 原油価格は82.8ドル/バレルと前年に比べ3.8ドル低下(前月に比べ4.1ドル低下)。
- 円レートは143.4円/ドルと前年に比べ4.3円の円高(前月に比べ2.9円の円高)。



注: 1. 輸出数量、輸入数量とも2015年=100とした指数 2. 輸出確報; 輸入速報(9桁)
3. 原油価格は全日本通関CIF価格
4. 円レートは東京外国為替市場の銀行間中心レートの月平均値
資料: 財務省「貿易統計」

6. 生産動向 (9月)

全国、中国ともに、一進一退で推移している。

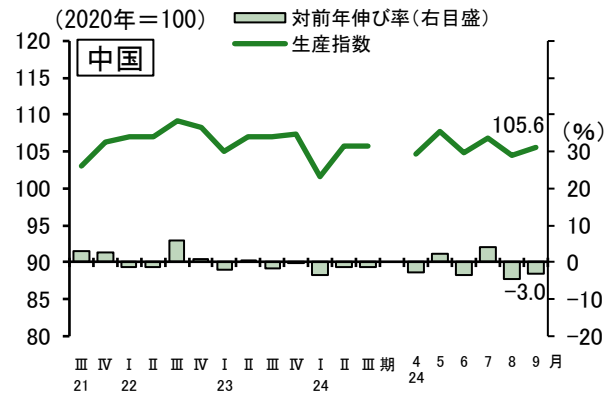
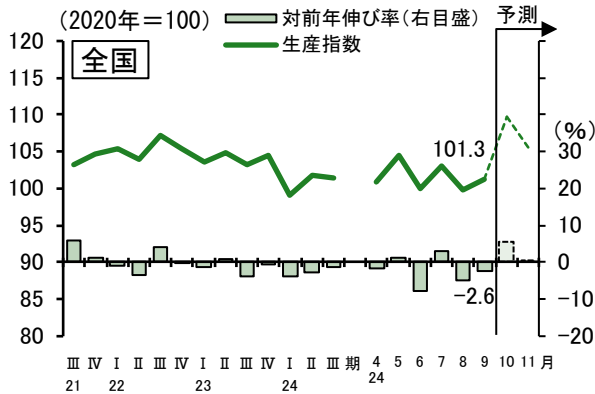
● 鉱工業生産指数 (総合)

(全国)

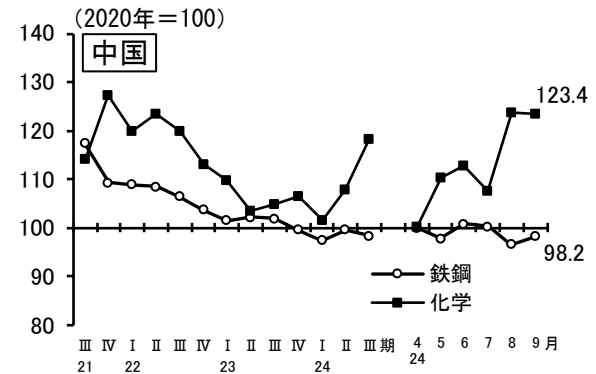
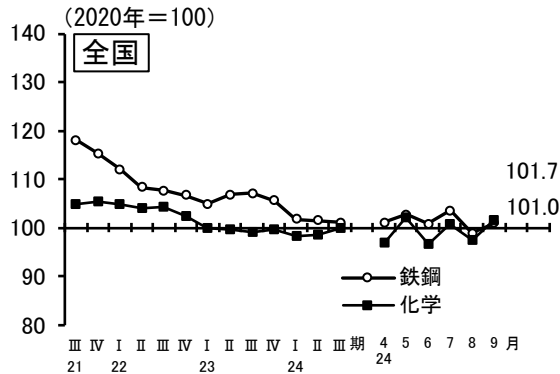
- 生産指数 (季節調整済) は、101.3 (前月比+1.6%) と2カ月ぶりに前月を上回った。需要の一服から汎用・生産用・業務用機械などが低下したものの、前月に台風の影響による工場稼働停止があった自動車が生産再開により上昇したほか、化学なども上昇した。
- 生産指数 (原指数) は前年同月比▲2.6%と2カ月連続でプラスとなった。

(中国)

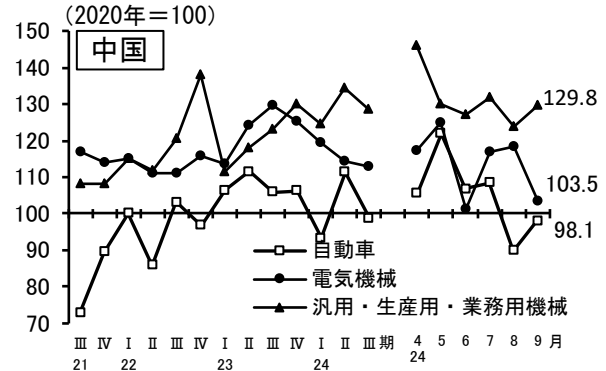
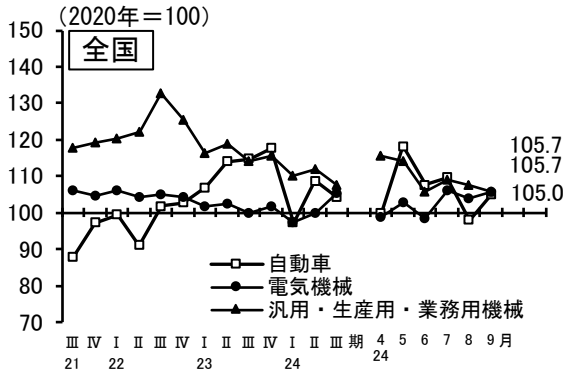
- 生産指数 (季節調整済) は、105.6 (前月比+1.1%) と2カ月ぶりに前月を上回った。電気機械などが低下したものの、前月に台風の影響による工場稼働停止があった自動車が生産再開により上昇したほか、アジア向けのポンプやタービンなど汎用・生産用・業務用機械も上昇した。
- 生産指数 (原指数) は、前年同月比▲3.0%と2カ月連続でマイナスとなった。



● 鉱工業生産指数 (素材)



● 鉱工業生産指数 (機械)



注：1. 生産指数は季節調整済指数 2. 生産指数の対前年伸び率は原指数による 3. 予測値は「製造工業生産予測調査」の製造業の値を基に算出 4. 中国の最新月は速報値 5. 全国は2023年4月速報分、中国は2024年1月速報分より、鉱工業指数の基準年が2015年から2020年に改定された 6. 「電気機械」は全国では1995年基準の業種分類を適用（電気機械工業、情報通信機械工業、電子部品・デバイス工業の合計） 7. 「汎用・生産用・業務用機械」は全国では「汎用・生産用・業務用機械工業」、中国では「汎用・業務用・生産用機械工業」 8. 「自動車」は中国では「自動車（乗用車・トラック・主要部品）」

資料：経済産業省「鉱工業（生産・出荷・在庫）指数速報」「製造工業生産予測調査」、中国経済産業局「中国地域鉱工業生産動向」

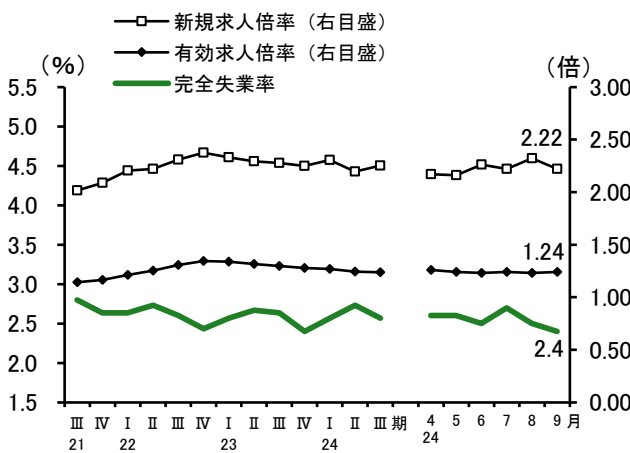
7. 雇用情勢(9月)

全国、中国ともに、改善の動きが弱まっている。

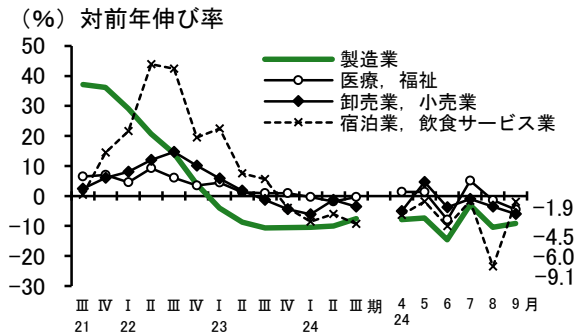
● 完全失業率、有効求人倍率、新規求人倍率

(全国)

- ・完全失業率は2.4% (前月差▲0.1ポイント) と2カ月連続で低下した。
- ・有効求人倍率は1.24倍 (同+0.01ポイント) と2カ月ぶりに上昇した。
- ・新規求人倍率は2.22倍 (同▲0.10ポイント) と2カ月ぶりに低下した。



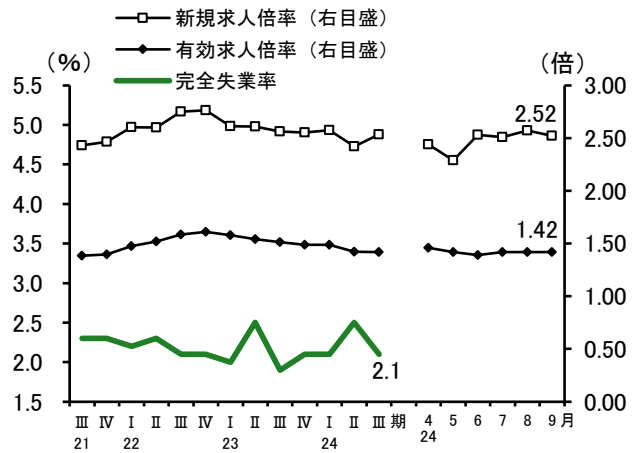
主要産業における新規求人人数の推移(全国)



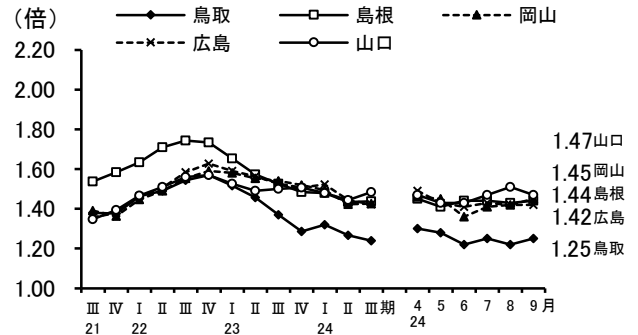
注：完全失業率の月次、有効求人倍率、新規求人倍率は季節調整値、完全失業率の四半期は原数値
資料：総務省「労働力調査報告」、厚生労働省「職業安定業務統計」

(中国)

- ・7-9月期の完全失業率(原数値)は2.1%と、前年同期と比べ0.2ポイント上昇した。
- ・有効求人倍率は1.42倍(前月差±0.00ポイント)と横ばい。
- ・新規求人倍率は2.52倍(同▲0.05ポイント)と2カ月ぶりに低下した。



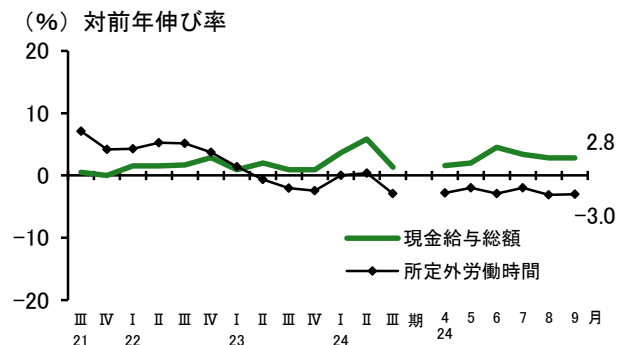
有効求人倍率の推移(中国5県)



● 現金給与総額、所定外労働時間

(全国)

- ・現金給与総額は33カ月連続で前年比プラス(前年同月比+2.8%)。
- ・所定外労働時間は、15カ月連続で前年比マイナス(同▲3.0%)。うち製造業は21カ月連続で前年比マイナス(同▲2.2%)。



注：1.事業所規模5人以上の指数(2020年=100)の対前年伸び率 2.最新月は速報値
資料：厚生労働省「毎月勤労統計調査」